

Panasonic NPO サポートファンド 【環境分野】
2012年助成団体
成果報告

アウトドア環境保全活動における
企業の人材育成等に必要な付加価値の探求

2013年3月1日

特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム

応募当時の課題

より付加価値のある人材育成プログラムの開発が未整備

□これまでに開発してきた、

- ①社会貢献活動サポート
- ②社員研修サポート



明確な差別化

□チームビルディングなど人材育成の観点を前面に出した(人事研修)プログラムに至っていない。

□営業手法、広報ツールなどが十分でない。

普及目的のパートナー企業が不足

□企業の活動は単発のものにとどまっていた

□ネットワーク的な活動参加の拡大構想が未整備

助成事業の概要

A. 付加価値のある人材育成プログラムの開発

- 1) 企業向けプログラムの開発（人材開発専門家との協働）
- 2) プログラムの実践

B. ゴミ発生抑制に向けたアプローチ

- 1) より効果的な戦略を立てる（業界団体に向けたアプローチ）
- 2) 業界団体への提案

C. 営業手法、広報ツールの整備

- 1) 営業資料、パンフレット制作
- 2) 販路の開拓
- 3) カスタマリレーションシップマネジメント手法を用いた営業拡大の検討

A. 付加価値のある人材育成プログラムの開発

企業向けプログラムの開発

アドバイスをいただきながら、組織内でプログラム開発をすすめる

■ ピープロフォーカス・コンサルティング(PFC)との協働

■ チームビルディングジャパン(TBJ)との協働



プログラムの実践



(10/13 チームビルディングを取り入れて)



(10/27 ダイバーシティを取り入れて)

B. ゴミの発生抑制に向けたアプローチ

河川ゴミ発生源対策の戦略検討

(当初)マイボトル式ベンディングマシンの試験的導入



(方針転換後)飲料メーカー、プラスチック業界団体を通じた啓発

<組織を動かさしめる方を動かして、確実に、啓発を広める>

食品衛生法の壁、
マシン導入までの社内的手続き等
短期間で、1団体から動かせるもの
ではないであろう……

業界団体への提案

現状の課題と
対策に向けた
協働の提案
(JEANと協働)

提 案

ステップ

- ①現場へのフィールドツアー
- ②ゴミデータの定期報告
- ③各業界の会員企業を対象に
荒川クリーンエイド参加
- ④アダプト制度への参画

(4/23) プラスチック系業界団体の勉強会で提案



(6/29)河川敷現場のフィールドツアーを実現



河川敷に散在するプラスチック原料粒や破片ゴミを視察

C. 営業手法、広報ツールの整備

営業資料、パンフレット制作 外部(プロボノ)の支援



- ミーティング5回
- + 活動参加2回
- + ネットワークミーティング2回



営業資料



テストマーケティングに同行(2回)
いただきながらブラッシュアップ

カスタマリレーションシップマネジメント手法を用いた営業拡大の検討



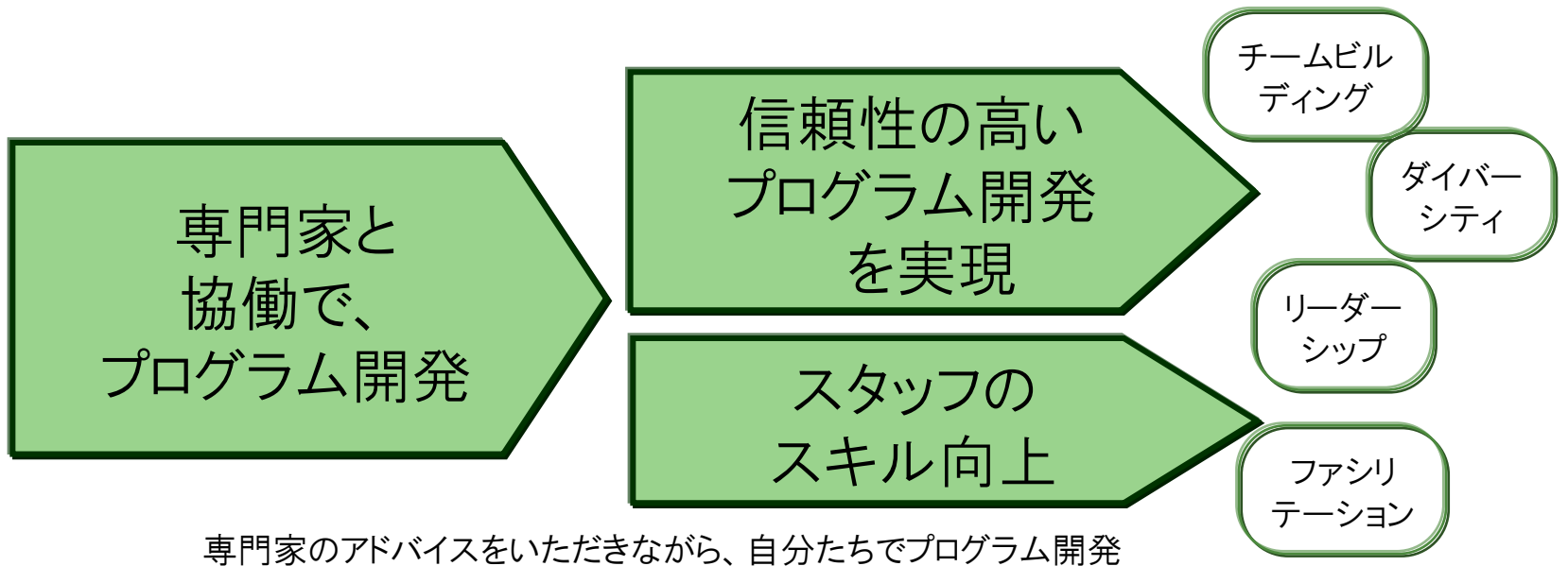
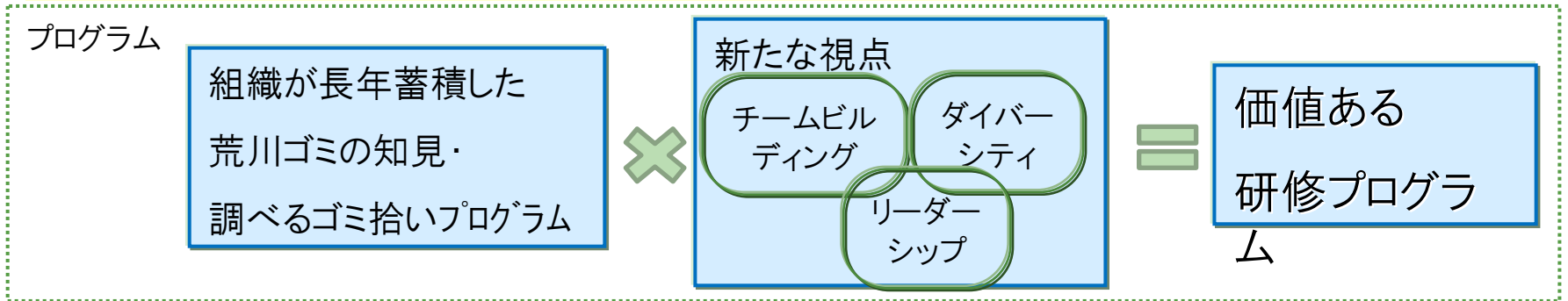
保険会社が顧客とともに活動
損害保険会社が代理店とともに活動
その他、流通業などにも営業(活動実現せず)

販路の開拓

人材育成・研修専門企業リストアップ
+ 営業 + 連携の調整
(販売方法とその役割分担や
条件の調整)

助成事業の成果(1/2)

1. 価値ある人材育成プログラム開発を実現



2. 今後の事業展開の道筋を構築

① 河川ゴミの発生抑制に向けて

戦略の方向性
を見出す

今後のアプローチ
の下地構築

② ネットワーク型の参加拡大に向けて 新たな活動形態のモデル実施



実績

今後の
営業

参加者、ネットワーク団体、NPO
にとってWin×Win×Winの関係

助成事業の総合評価

◆ 以下は概ね完遂

□ 人材育成プログラムの開発とその営業ツール等の整備

・ 新プログラム導入に対して高評価

※2013年研修ではチームビルディングプログラムを実施予定

・ 新入社員実施(予定)件数の増加

・ 新プログラムに対する外部からの関心高まる

◆ 以下は模索中

□ 新たな販路の整備

□ ネットワーク型の参加拡大

◆ 以下は苦戦

□ 発生抑制に向けた業界団体との連携強化

⇒ 業界団体の壁は厚く、提案ステップの1/4までしか動かず

1. 研修事業を、組織の持つ自主事業のひとつとして確立

- ・社会貢献でCA活動実績のある企業に対して、研修プログラムの提案
- ・人材研修企業からの新たな販路の開拓、確立
⇒新入社員研修以外の研修の可能性を探り、春に集中する研修を分散する

2. 研修会社との協働による更なるプログラム開発と新たな連携

- ・他企業交流による、チームビルディングのイベント開催の可能性を探る

3. 連携による発生抑制と参加拡大の展開

- ・発生抑制に向けた、業界団体に対する啓発活動の継続
- ・ネットワークを持つ企業・団体・業界などと連携した参加拡大活動の展開

■他者(他団体)の力を借り、自分たちの身に付けていく！
専門分野のスキル・知見を持つ多くの方の支援をいただきながら
開発を進めてきました。

その開発をする過程で、様々なことを学び、議論しあい、
自分たちのスキルアップを実現

■常に上を見た前進をあきらめない

2008年にプログラム開発を始め、5年かかってプログラムを成長さ
せてきました。新たなニーズと可能性を探る前向きな姿勢を持ち続
けると道は拓けるでしょう